

平成28年10月26日

## 日本リハビリテーション専門学校「第一回学校関係者評価委員会」報告

### 1、日時

平成28年10月21日（金）15：45～17：00

### 2、場所

日本リハビリテーション専門学校第二校舎6階

### 3、出席者

委員：高田、武市、松岡、古川、山下、栗原

事務局：工藤、畠山、近野、篠田、鈴木雅、松生

### 4、会議内容

以下議題に添って進行

#### 【議題】学校関係者評価委員会

- ① 平成27年度職業実践専門課程自己評価（文部科学省モデル事業）  
～主幹校：学校法人福田学園（大阪）～
  
- ② 国家試験対策委員会設置と取組みの概要について
  - ア 国家試験対策委員会設置と取組みの概要について
  - イ 下部組織ワーキンググループの役割と取組みの概要について

#### 事務局 工藤

評価委員会を開始、資料に添って説明。

#### （意見交換）

事務局 工藤 はじめにお願いがございます。別紙「職業実践専門課程自己点検評価」を各項目5段階で委員の先生方に評価いただきましてご返送をお願いいたします。では、議題の資料説明に対しまして、委員の先生方から忌憚のないご意見をお願いいたします。

古川委員 国家試験は私も大変苦労しました。当時特に仕組みはなかったが、クラス内でマンツーマンに見てもらって、事務にも泊まり込みしてもらい、その辺の成果は出たと思っています。最初は4人のチームでスタートして年明けに2人一

組で行い、後半は集中できて良かった。2月に交代で泊まり込みをやった。次回も同窓会で行っている国試当日のお弁当配布を行います。

松岡委員 国家試験はPT・OTになるためには避けて通れないもの。学校側がこのように協力してやっていただけるのは学生としても非常にありがたいことだと思う。試験慣れということも大事。試験を受けることで自分の実力を知ることができる。仲間同士で協力し合いながら目標点をまずはクリアできれば良い。このような学校の取り組みが始まったことは非常に良いことだと思う。

山下委員 私の時代の時よりも更にスケジューリングが細かく出来ている。とても丁寧になっていると感じる。アンケート結果だけを見ると国家試験対策に対してネガティブな意見が多いように思うが、平常の授業から国家試験に向けて行っているという整理ができている学生は従来の国家試験対策でも十分かもしれないが、国家試験対策授業のみが国家試験対策になっていると思っている学生は学校の対策が足りないと感じるのかもしれない。日リハは対策を十分に行っていると思います。

事務局 工藤 できる学生は自分一人でも考えてできるが、そうではない学生ができないため苦勞しているところです。新宿セミナーのランクでもかなり以前に比べてランクが落ちてきている。教員側の苦勞は倍増しているように思うが、国家試験結果は学校の評価に直接響いてくるため、力を入れざるを得ないことが現状。今までは担任を中心に行ってきたが、昨年の国家試験結果を受けて国家試験対策委員会を設置したという経緯がある。実際にはワーキンググループの役割とそのグループが企画している種々の対策が効果を発揮することが重要である。どのような成果を生まれるかは期待と不安を持っている。

栗原委員 先生方の御苦勞と学校側の配慮が感じられる。これによって結果が良く出ることを願うばかりです。対策授業というのはグループワークが終わった後に行うのか。

事務局 工藤 実習は10月に終わるので、その後に本格的にやろうということになっている。高田先生、大学から見るといかがでしょうか。

高田委員 かなり緻密に細かく計画されている。大変な努力をされたことが「国家試験対策授業の手引」を見るとよくわかります。私も国試対策に関係しているが、優秀な学生はこの計画で良いと思うが、3割程度いるそうではない学生がこのペース

に付いていけない可能性がある。そういう学生をどうしていくかが少し気を付けてやらないといけない。あとは、優秀な学生に中間くらいの学生を教えてもらう。そして中間くらいの学生には下の学生へ教えてもらう方法を行ったことがある。学生同士で教え合うことは非常に反応が良いようだ。また、高校の勉強の延長になっている学生がいる。試験前は勉強するが、試験が終わると勉強しない。1週間もすると忘れてしまう。その対策として復習計画表を作らせた。5回は復習してもらおう。1週間に1回担当教員がチェックする。復習ができていない学生とは面談をした。1ヶ月くらいして皆がかなりやるようになって記憶が定着するようになった。

事務局 工藤 大変貴重なご意見をいただきました。今の学生は勉強する習慣が身に付いていないため復習することもない。かなり徹底してやってようやく習慣化する。

事務局 松生 高田先生が仰るとおりで、下位層の学生をいかに引き上げていくかが最大のポイントだと思っている。また、学校としてこのような全体での取組みは初めてのため、どれだけの成果が出るか不安な面もある。付いていけない学生が出るという心配が大きい。また、教員内でも負担が増えることに不安な声も聞こえてきている。教員側もまだ手探り状態ではあります。

高田委員 ある程度やったら計画を見直すことも必要だと思う。優秀な学生を利用することは教員の負担も減るし大変良いと思う。解剖学では特にペア学習を取り入れたがこれも成果がありました。

事務局 篠田 現在立てている計画は中間層の学生には効果的だと思っている。ただ、低学力者に対してこの詰込み型の学習に付いていけるのかが心配である。勉強の持続力がない低学力者にとって、講義時間が増えることは厳しいかもしれない。また、高学力者に対しては、1人で勉強できるため、フリーな時間を与えることも大事である。高学力者が時間に縛られて模試等で結果が出なくなると、グループ学習で他の学生に教えるという役割ができなくなる。学力に応じた対応は大切になってくる。委員の先生方のご意見も参考にしながら対応していきたいと思っている。

高田委員 成績の良い学生は自分のペースでやっていける。ただ、習うよりも教えることの方が記憶はよく残る。他に教えることで確実に合格していける。教えるメリットを学生に説明することも大事である。

事務局 鈴木 グループワークがうまく機能しない場合は、教えるよりも自分の勉強をしたくなる学生が出る。下の学生も付いていけなくなると自分のペースでやりたがる者が出てくる。こういった問題は毎年出てくるのでうまく機能するように様子を見ながら我々のフォローアップが必要になってくる。

事務局 畠山 グループワーク等には色々な問題が含まれているが、学校としてこのような全体での取り組みは必要なことである。ここを通過しなければ専門学校としての価値がなくなる。OT科の方で素晴らしい取り組みをしていたので、その知恵も借りて、全体として計画を作成していった。底辺を上げていくのはクラス力が必要である。国家試験は何とか通してあげられる準備をしたい。グループワークによって意識改革をしていってほしい。それですべてが解決することではないが、学校としての取り組みとしては必要なことで、苦勞しながら頑張っているところです。先日の国試対策セミナーは大変素晴らしいものでした。

事務局 近野 学校全体との取り組みとして国家試験対策委員会が立ち上がって動き始めているという事が大きなことだと思っている。それに伴って教員がやるべきことの分担だとか、他の業務との調整だとかが今後課題になってくる。全教職員の理解と協力を得ながら進めないと実現できない内容になっている。学校一丸となって今年何とかやり遂げて、その結果を出すということと、今年反省を踏まえて来年度以降更にブラッシュアップしてまたより良いものにしていこうという最初の年になるので、まずは始めたという事が大きいと思っています。

武市委員 入学者の7人に1人がフリーターというのは少々驚いた。低学力者が入ってきているということかもしれない。また、最近発達障害の学生もいるので、そういった学生に対してどうやって学習習慣を身に付けさせるか。また実習についても、対人関係能力をどのように付けていくか等に日リハは力を入れられている。今回の国家試験対策委員会の設置も含めて、日リハの先生方は大変頑張られているなど敬服いたしました。ただ、全体として見ていくとPT・OTはこれからどんどん増えていく。社会的ニーズに合った学生を育成していくということは、まずは国家試験対策に力を入れた後になっていくのかなとは思っている。世の中のニーズとしては学生があまり興味のない「地域福祉・リハ」や「在宅福祉・リハ」が近年は特に重要になっているので、学生への意識付けをどのように行っていくかが今後の課題かと思っている。